「難聴学級における自立活動の取り組み」

八尾市立安中小学校　岡田史登

◎児童の実態

本校の難聴学級には、１年生３名、２年生１名、４年生１名の計５名が在籍している。障がいの程度は軽度、中等度、高度と様々であり、５人のうち４人が補聴器を両耳装用している。

◎本年度の自立活動の取り組み

・語彙を増やす

・補聴器について知る

・手話に親しむ

◎「補聴器について知る」取り組み

１年生が３名入学したことから、まずは家庭と協力して「補聴器」を毎日きちんと装用し、電池が切れれば自分ですぐに換える習慣が身についているかを確認した。補聴器の予備電池については「自分で管理するもの」と、「担任が管理するもの」の両方を用意している。

次に、「自分の補聴器についてよく知り、大切に思う気持ちを持つこと」をねらいとして、家庭にも協力を仰ぎ、自分の補聴器について宿題で調べさせた。調べたことを自立活動の時間に発表しあうことで、補聴器の各部分の名前を覚え、その役割について知った。

「家に帰ったとき」、「お風呂に入るとき」、「寝るとき」補聴器をどうするかを交流した。「お風呂に入るとき」と「寝るとき」は、当然全員「補聴器を外す。」と答えた。しかし、「家に帰ったとき」はどうするかは、外すが２名、つけておくが２名と意見が分かれた。それぞれ理由を聞くと、外す派は「ずっとつけておくと疲れるから。」「家だとつけなくとも聞こえるから。」つけておく派は「やっぱりないと不安。」「つけていた方がよく聞こえるから。」という意見で、お互いに相手の意見も「なるほど！」と納得できた。

「補聴器の手入れ」についても発表しあった。補聴器の耳穴に入れる部分を「イヤーモールド」と言う。「毎日（イヤーモールドのところを）お母さんがふいてくれる。」という子どももいれば、「何もしていない。」「知らない。」という子どももいた。耳穴に入れるイヤーモールドは大変汚れやすいので定期的にきれいにする必要があることを知らせた。「水に濡れてしまったらどうするか」は、「すぐにハンカチで拭く。」「乾燥器に入れる。」などの意見が出て、補聴器が水に弱いものであることは全員よく理解し、対処できていた。

補聴器について学習を進めるうちに、自分の補聴器について理解が深まり、より愛着がわいてきたようだ。１年生の A は、保育園のとき、補聴器をつけているのが自分一人だけだったので、「なんで、A ちゃんだけ、ほちょうきをつけるの？みんなが、じろじろ見るからいや。」と言っていたそうである。ところが、難聴学級で仲間と補聴器について学習した後は、自分のクラスの友だちに「補聴器を見せてあげて。」というと、手に乗せた補聴器をとても誇らしげに友だちに見せて回っていた。

さらに、本校には、全校の児童が参加する毎年恒例の行事「手話集会」がある。これは、「難聴について理解を深める」「手話に親しむ」「友だちの頑張りを認め合う」をねらいとして取り組んでおり、「難聴学級からの発表」と全校児童による「手話コーラス」の２本立てになっている。本年度は、１２月１３日に、「難聴学級からの発表」で「補聴器のひみつクイズ」をする予定である。今は、自分たちが調べた補聴器についてクイズを作って発表し、補聴器のことを楽しく知ってもらおうと、準備・練習を進めているところである。自分たちの大切な補聴器のことを全校のみんなに発信し、受け止めてもらえることで、それぞれの自信となり、自尊感情の育ちにつながるであろう。